

(様式6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2873002709		
法人名	有限会社シニアケア		
事業所名	シニアケアサザン塚口		
所在地	兵庫県尼崎市南塚口町8-3-21 (電話)06-6428-2948		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成20年2月14日

【情報提供票より】 (19年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	37848		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤7人, 非常勤16人, 常勤換算14.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造ラスモルタル 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	22,400 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,150 円			

(4) 利用者の概要 (11月5日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4	要介護2	4		
要介護3	3	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白壁診療所・大塚整形外科・高田循環器内科・徳永歯科
---------	---------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>阪急塚口駅南西徒歩5分の閑静な住宅街に位置したグループホームである。2階建ての本社員寮を改修して利用している。1階、2階とも光がいっぱいに降り注ぐ明るいグループホームである。経営理念をもとに職員が言動や行動化しているよう職員で理念を話し合い、分かりやすく伝えやすい理念を作り上げて日々のケアに活かしている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>管理者の交代により現在、全職員で話し合い、改善へ向け取り組む姿勢はあるが、前回評価を活かした改善へは至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>職員間の引継ぎの際に第三者評価の必要性について説明し理解を得るようにしている。今回は組織体制の見直しのため、全員で評価することができず主に施設長が評価を実施、その内容を職員が確認する形となっている。施設長や管理者の評価に対する取組み姿勢は前向きである。評価を活かしてサービスの質の向上に繋がるよう取り組む姿勢がある。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>定期的に開催されている。町会長、民生委員、地域包括支援センター、近隣住民、家族会から幅広い立場の人が参加している。会議では、事業報告や情報交換の後、自由討論会が行われ参加者から率直な意見を出してもらおうよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>玄関入り口に投書箱を設置している。また、重要事項説明書に苦情受付担当者を明示している。また、面会時に意見や苦情を言いやすいような雰囲気作り心がけている。家族等の意見や不満があった場合は、職員で話し合い日々のケアに活かすよう前向きに取り組んでいる姿勢がある。また、「質問や不満等に対する回答書」として請求書と一緒に送付している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>地域との付き合いの基盤作りとして、老人センター行事への参加、グループホーム主催のもちつき大会や講習会の開催を通して地域と孤立しないよう地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営理念の内容を職員全員で見直し分かりやすい言葉で表現し日々の関わりの中に活かせるよう独自に作成してホーム入り口に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示して確認している。定期的な会議の中で理念に基づいたケアになっているかの確認を行うことで共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いの基盤作りとして、老人センター行事への参加、グループホーム主催のもちつき大会や講習会の開催を通して地域と孤立しないよう地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間の引継ぎの際に第三者評価の必要性について説明し理解を得るようにしている。今回は組織体制の見直しのため、全員で評価することができず主に施設長が評価を実施、その内容を職員が確認する形となっている。施設長や管理者の評価に対する取組み姿勢は前向きで評価を活かしてサービスの質の向上に繋がるよう取り組む姿勢がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的開催されている。町会長、民生委員、地域包括支援センター、近隣住民、家族会から幅広い立場の人が参加している。会議では、事業報告や情報交換の後、自由討論会が行われ参加者から率直な意見を出してもらおうよう取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>3ヶ月に1回に役員会、2ヶ月に1回連絡会に参加し情報交換や討論会を行っている。また、キャラバンメイト市などと連携しながら実施している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態や日々の暮らし方は、個々の記録を送付。行事の様子やお知らせなどはホーム新聞を作成して毎月送付している。突発的な変化や連絡事項が生じた場合はその都度報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関入り口に投書箱を設置している。また、重要事項説明書に苦情受付担当者を明示している。また、面会時に意見や苦情を言いやすいような雰囲気作りに心がけている。家族等の意見や不満があった場合は、職員で話し合い日々のケアに活かすよう前向きに取り組んでいる。また、「質問や不満等に対する回答書」として請求書と一緒に送付している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>「馴染みの職員が対応することが重要」と考えており同法人内の異動はない。新しい職員が入る場合は入居者に紹介し馴染みの関係がスムーズにとれるよう心がけている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階にに応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修へ積極的に参加しているが、現在、自己負担で受けている。次年度は事業所で負担することを検討中。内部研修については、年間計画の中で位置付けし実施している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の連絡会に積極的に参加し同業者との交流を図りサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談を受けた後、家族と共に見学を兼ねて面接を行い、納得して入居してもらうよう取り組んでいる。状況によっては自宅や入院先へ訪問して面接を行い、安心し納得しながら利用できるよう段階的な支援を行っている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「入居者も職員も同じ人間」という視点に立ち、人生の先輩から学ぶことが多くあるため、そのような場面作りをすることでお互い支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を把握するため、入居者台帳の作成、センター方式による基本情報ノートを活用している。基本情報ノートは家族に記入してもらうなどの工夫がなされている。把握が困難な方に対しても月1回の会議で話し合い本人本位の計画立案に取り組んでいる。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から入居者の思いを汲み上げて職員全体で意見交換をしながら、個別計画に反映させている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに引継ぎの中で介護計画の見直しを行っている。状態が変化した際にはその都度、家族や関係者と話し合い臨機応変に対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎の支援を行っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族や本人が希望する医療機関・医師に受診できるよう支援している。かかりつけ医への受診は家族が同行するが、同行できない場合は職員が同行している。受診結果に関する情報は共有できるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に文書で重度化に関する指針を提示している。入居者や家族が希望する場合は、状況に応じて家族や関係機関と話し合い決定するようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の誇りやプライバシーを損なうことがないようにトイレの誘導や食事の介助には細心の注意を払いながら、目立たずさり気ない言葉かけや対応に配慮している。個人情報の保護については、記録類は事務所から持ち出さない、固有名詞を出さないなど基本的な事を徹底すよう職員間で確認し合っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務優先とせず、入居者のペースや気分を大切にした支援を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>嗜好調査を行い出来る限り好みの食事を楽しく食べることができるよう工夫している。夕食のメニューは入居者と共に考えて決めている。また、入居者と共に食事の準備や後片付けを行い、一人ひとりが持つ力を発揮する場面としている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>特に入浴日を決めず、出来る限り希望に沿った入浴ができるよう取り組んでいる。羞恥心や恐怖心を軽減するため基本的に同性介助としている。入浴を嫌がる入居者の方には根気良く声かけを繰り返し同意を得た上で入浴していただくような支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木の水遣り、金魚の世話、洗い物など、一人ひとりが持っている生活能力を活かせるような場面作りを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の習慣や楽しみごとに合わせた外出支援を行うよう取り組んでいる。なかでも日々の買物へは希望する時間に応じることができるよう努力している。日々の外出を好まない入居者の方に対しても五感の刺激や気分転換になるよう行事への参加を促しストレスの発散ができるよう取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけられている状態で暮らしている心理的不安・閉塞感などを職員が理解した上で門扉と夜間のみ施錠している。入居者に外出の様子がある場合は一緒に外出したり、離れて同行したりと安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力のもと火災訓練を実施している。地域の(近隣)方々も参加しグループホームの災害時対策に関する理解や協力体制(夜間の対策)を築いていく取り組みを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者にとって好みの物を美味しく食べることができるよう、日頃の関わりから好きなものや食べやすい物を把握し柔軟に対応できるようにしている。また、食事・水分摂取量を確認し必要な食事や水分が取れるよう表に記入して職員全員が情報を共有できるようにしている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関、食堂、居間（和室）廊下等、日当たりが良く明るく暖かく安らぎのある空間がある。共有スペースにはテーブルと椅子を置き気のあった仲間とあるいは一人でゆっくり過ごせるように工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が安心して過ごせるように馴染みの深い家具や持ち物を置き居心地良い居室作りがなされている。また、趣味の絵や写真を飾ったりすることでその人らしさを大切にする工夫をしている。</p>		

 は、重点項目。